

2019年3月実績概要(メモ)

(2019. 4. 18)

日数の増加を背景に前月対比では増産が目立つ中、前年比では減産品目が垣間見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 562,500トン

前月比 +15.4% (+75,200トン)

前年同月比 +13.7% (+68,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+10.7%	-
定修要因等	+6.4%	+15.7%
能力増減	-	+0.2%
稼働率変動	▲1.7%	▲2.2%
生産増減率	+15.4%	+13.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.5%→当月95.1%←前年同月97.0%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月2社2プラント

平成30年度(会計年度)生産量 6,184.7千トン 前年度比 ▲4.2%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加と稼働率要因等から LD、HD、PP、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、ベンゼン、トルエンなどの13品目がプラス。SM、SBRなどの4品目は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から HD、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、BRなどの7品目がプラス。SM、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼンなどの10品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、稼働日数の増加とともに稼働率要因や定修規模差が相合わさり LD、HD、PP、PS で大幅なプラスとなった。

前年比では、定修系列数の減少や稼働率要因から HD、PS はプラス。LD、PP は微減となった。

ロ) 国内出荷

前月比では、ユーザーサイドの稼働日数の増加もあり LD、HD、PP、PS の4樹脂でプラスとなった。

前年比では、前年が定修に備えた在庫確保の動きも相まって、例年に比べて低調な出荷状況にあった。これに対して、当年は HD では特に中空成形分野、PP では射出成形分野を中心に出荷が増加しプラスとなった。一方、PS は前年の出荷が高めであったこともありマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、日数の増加と期末要因等も重なり、4樹脂で前月に続いての大幅なプラスとなった。

前年比では、昨年が定修に伴う供給能力の低下により、特に PE では輸出が低迷していたが、当年は LD、HD で大幅なプラスとなるなど、4樹脂ともにプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD で減少、HD、PP、PS で増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して LD は低下、HD、PP、PS は若干の上昇となった。在庫水準としては、HD はやや高め LD、PP、PS はほぼ適正域内となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LD	▲13,200	3.4	3.2
HD	+4,400	3.4	3.5
PP	+2,400	2.8	2.9
PS	+7,100	1.3	1.6

以上